

**令和2年度（2020年度）第2回熊本県公立大学法人評価委員会
議事要旨**

- 1 日 時 令和2年（2020年）8月6日（木）10:00～11:10
- 2 場 所 熊本テルサ 2階中会議室C
- 3 出席者 <熊本県公立大学法人評価委員会>
猪股委員長、池上委員、木村委員、園田委員、増永委員
<事務局>
手島総務私学局長、熊本県政情報文書課長、石井県政情報文書課審議員 他
- 4 議 題
(1)平成31年度（2019年度）業務実績評価について

資料1-1 第1回評価委員会終了後にお寄せいただいたご意見・ご質問等について

資料1-2 年度評価に係る6つの視点での評価一覧表について

資料1-3 平成31年度（2019年度）公立大学法人熊本県立大学業務実績報告書について

委員長	「6つの視点」の評価は、それぞれの取組みの特色を表す視点ということで、非常に良い分け方だと思うが、例えば「独自」の取組みが「注目」されたとき、どちらにするか難しいところもある。
委員	<p>きちんとした評価が貰える「独自」性のあることをやれば、当然、「注目」もされるわけで、その辺をはっきりさせておかないとなかなか難しい。</p> <p>1つの評価に押し込むのではなく、複数の項目に再掲するような形でもいいのではないか。他の委員からの意見にもあったが、「顕著」とされている「もやいすと育成システム」などは、マスコミも注目し関心を持っている。</p> <p>ただ、再掲するとなると範囲が広がりすぎて、あれもこれも「注目」ということにもなりかねないが。</p>
事務局	これまで事務局では、いずれか1つの評価項目に該当させる形で整理してきたが、委員からの御指摘も踏まえて検討する必要があると考える。
委員	<p>取組みを「実施する」と、それが「注目される」とは、少し別の次元の感じがしたので。大学としてはいろんなことをやって、実績が「顕著」だった、「独自」のものだったと。その中でも特に「注目」されたものというのが、別枠であるような感じがする。</p> <p>注目に値する取組みはたくさんあると思う。「もやいすと」は、県や各市町村とコラボレーションし、マスコミでもよく紹介されている。県立大学と包括協定を結んでおられるところも、大学の役割をととても大事に思っているし、一般県民からも評価され、かつ注目されている取組みもある。</p> <p>これまでの事務局の整理があるなら、今回はいいけれども、一度考え方を整理しておけば、今後は分類で困ることはないのではないか。</p>

事務局	今回は、いずれか1つの評価項目に該当させる形で整理を進めさせていただき、プラスして「こうした意見もある、こうした評価もしている」という委員各位の声を、大学側に伝えさせていただき形で整理したいが、今後、評価実施要領の整理も進めさせていただければと思う。
委員長	審議の俎上に上がった項目について、大学側に何らかの形で伝えていただいて、委員としてはこういう視点でも評価をしている、という意味が伝わる方が良いと思うので、そういう形で考えていただきたい。 優劣でなく種別で評価しているので、複数の評価項目が該当しても全く不思議ではないやり方なのかなと個人的には思う。
⇒ 計画番号(4)の評価は「顕著」、(27)の評価は「注目」とすることで各委員了承。	
委員長	「注目」の部分で、実際にメディアによる報道の状況はどうか。
事務局	計画番号(27)の国際シンポジウムは、地元新聞社との共催でもあり、大きく取り上げていただいている。また、(4)の「もやいすと」も、地元紙が連載を組んだり、個々の取組みが新聞・テレビで紹介されたりと、この2項目が「注目」という要素が特に強い2項目だとは考えている。
委員長	「課題」とされた(3)大学院入試については如何か。
委員	社会人などの受入れを推進するための取組みという点では、計画番号(5)で、高度グローバル人材育成のために社会人特別選抜(国際協力枠)を設定された。これは画期的であり、法人自己評価「S」、評価委員会も「新規」と評価している。(3)を「課題」とするとその点と齟齬をきたすのではと感じた。 前回ヒアリングで法人にも伺ったが、大学院のあり方を考えて方針を決められているのなら、それはそれで良い。確かに定員を充足できていないので問題ではあるが、ここに焦点を合わせると、今後も「課題」のままではないか。 ただ、年度計画の中で「課題」を挙げるなら、やはりこの項目かなとは思っている。
委員長	取組みの推進ということだけならば、十分頑張っているという評価もありうるが、数字で出てくる物差しを使うと、クリアするのは難しくなる。 ただ、中期目標期間中に指標を変えるというのも難しいことだと思うので、ここは「課題」として、この点では頑張ってください、ポイントを指摘しつつ今後を注視していく、というのもひとつの考え方かと思う。
委員	今、委員長にお話しいただいた整理で結構。
事務局	そもそも定員充足率が良いのかという委員からの投げかけを、新たな目標を策定する際などに、大学側にフィードバックする必要があると思う。取り組んでいる部分は別項目でしっかり評価しつつ、法人自己評価でBというところからも、今回「課題」と整理はするが、委員から評価をいただいた部分も大学側にしっかり伝えるようにしたい。
委員	大学基準協会の認証評価では、定員充足率の数字だけで評価コメントがシビアに決まってしまう部分もあるが、個人的には、この評価委員会がそれと同じような視点で評価すべきなのかどうか、ということもあると思う。

⇒ 計画番号（3）の評価は「課題」とすることで各委員了承。	
委員	計画番号（23）のアーカイブ資料について、公開が6件と進まない理由は。
事務局	マンパワー不足や、公開にあたって著作権等のクリアすべき課題があると認識している。平成30年度（2018年度）は資料の公開が出来ていなかったが、今回は公開に漕ぎつけた。今後の収集・公開のペースがどうなるかだと思う。
委員	公開しなければ意味がないので、必要な体制づくりなど進めて欲しい。
委員長	簡単に言うと、資料をスキャンする人がいないということか。
事務局	平たく言うとそうで、収集・整理・公開を限られたマンパワーでやっておられると理解している。
委員長	大変な仕事だと思うが、例えば著作権的な課題とか、公開すべくトライしているけど難しいのか、トライすらもできないのか。
事務局	実際に公開されている資料は、人物の写り具合が少ないとか、公開するための課題が比較的クリアしやすいものが出ているように思う。収集した案件ごとに、公開に向けた具体的な取組みをどの程度やっておられるかについては、大学側に確認する必要がある。
委員長	リストというか、どういう資料が収集されているかということの公開だけでもやるべきだという気がする。
事務局	大学ホームページには、公開されている資料6件のタイトルは出ているが、委員御指摘のようなリストが公開されているかどうかは確認できない。
委員長	それから、研究シーズの話もオープンにした方がいいと思っている。何をやっているのかわからないというのは常にある話で、しかも古くなってしまうと使い道がなくなる。情報を更新しながら出し続けていくことが大事だ。
委員長	<p>教育体制や学生支援に関わることも知れないが、現下の新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、通常授業ができない状況が続く、大学も遠隔授業などには当然取り組んでいるのだろうが、逆に、安全性を考えながら一旦は対面をさせるといって、少数でもいいので人を集める、そういう必然性を考えて努力してもらえないかという思いがある。どこの大学も「人を集めてはいけない」ばかりで、1人でも感染者が出たら悪者みたいに叩かれるような空気もある。</p> <p>先日、県立大学を視察したが、広々とした中庭もあるし、気候が良くなったら学生を外に集めて、フェイスシールドやマスクなどの対策をしながら講義すれば、さほどリスクが高い話ではないと思う。</p> <p>特に1年生は、何のために大学に入ってきたのかという話になってしまうので、直接対面する部分の努力をしてもらえないかと思う。</p> <p>社会的に受け入れられるかということもあるかも知れないが、そうした意見を評価の中に少し書き加えるのはどうか。</p>
事務局	<p>新型コロナウイルス感染症自体は、昨年度末に発生したものであり、今回の年度評価の中で何らかの記載、言及はあっても良いと考える。</p> <p>県立大学でも、特に今年4月以降のコロナ禍にあって、「感染拡大防止」と「学</p>

	修機会の確保」をどう両立していくか、学内でしっかりと議論しながら対応されている実情もあるので、大学が今後コロナ禍の中でどうやっていくのか、評価委員会の意見という形で付記しても良いのではないか。
委員長	遠隔授業等でより安全を追求しながら、もっと教育の質を上げる手段を考えるべきだという意向の方も多い。一方で、私のように考えている人もいないのではないだろうと。学生同士、実際に会わないと可哀そうだと思う。
委員	いろいろな場面で、最近「集まらない努力」ばかりで、「集まる努力」があまりなされていないと感じる。元には戻らないかも知れないが、出来る限り以前と同じようにする努力もして欲しい。 リモートやテレワークに注目した、新しい働き方のことも言われているが、人間社会において、人が集まるというのは基本的な部分。学生同士が触れ合っ てはじめて「学校」の意味があると思うので、委員長が仰ったことは、可能であれば書き込んでいただきたい。
事務局	業務実績評価書の「全体評価」の末尾に付記する方向で考えたい。
事務局	県立大学も、各委員と同じような意識は持っており、コロナ関係での休校の件も含めて理事長と面談した際にも、基本的には対面教育がやはり重要だと仰っていた。委員の皆様からの御意見を大学側に伝えるため、事務局としては評価書に付記したい。
委員	県立大学は、完全に遠隔授業になっているのか。
事務局	遠隔授業をしつつ、並行して対面授業もやっている。
委員	私が教鞭をとる大学でも、現在、ゼミや少人数の授業は対面でやっており、授業時には、教員が器具類を持ち込み、授業終了後は皆で消毒している。人が集まってもきちんとできる体制を取っていくことも必要だと思う。
事務局	県立大学では、特に実習等は、リモートが主流の時期にも感染防止対策を徹底しながら対面を再開するなど、柔軟に対応していたと承知している。
委員	学校に行かないのにサークル友達とは会っているというような実情もあるようだし、「集まっても大丈夫な体制」を取ることに力を入れるべきではないか。

資料1-4 平成31年度(2019年度)公立大学法人熊本県立大学業務実績評価書(案)について

委員長	これまでの議論をまとめる形で、事務局で内容を修正していただきたい。 本日の審議で議論した点、付記すべきという点も含めて、場合によっては各委員への持ち回りもあるかも知れないが、基本的には、評価書の細かい調整は委員長一任ということでよろしいか。 ⇒ 各委員了承。
-----	--

(以 上)